

名古屋徳洲会総合病院 心臓血管外科
術後の会 会報

2016年
26号

ハート通信

編集・発行 名古屋徳洲会総合病院 心臓血管外科 術後の会
〒487-0016 愛知県春日井市高蔵寺町北2-52
TEL:0568-51-8711 FAX:0568-51-7115
URL: <http://www.nagoya.tokushukai.or.jp/>

コンテンツ 2～3P……ご挨拶
4～5P……術後体験記
6P……検査科
7P……看護部
8P……新幹事挨拶



ご挨拶

皆様、お元気で暮らしておりますでしょうか？昨年の術後の会は参加された患者さんから感謝の声を多くいただきました。温泉と食事による慰安が中心であった会から今回は術後の悩み等を聞くコーナーを充実させたからと感じています。お元気そうに明るくされているとはいえ心臓大血管の手術をされた患者さんとご家族の健康に対するご心配は相当のものであると感じました。同じ手術をされた患者さん同士でお話をされ、私たちが心配ないですよと声をかけることで、笑顔で元気に帰っていく姿を見て術後の会で皆様と結びつきを持ち続けることが大事だと思いました。

名古屋徳洲会総合病院で手術をさせていただき、18年が過ぎました。手術をした患者さんを長く見させていただくことによって、手術技術や方法のみならず、患者さ



心臓血管外科
総長
大橋 壯樹



んへの思いやりや手術態度等様々のことを学びました。今はこの経験を生かして、東京、京都、大阪の徳洲会病院で指導者として若い心臓外科医とともに手術を展開しています。手術後の皆様からの声を聞くことは今後の手術をするうえで最高の教訓になります。術後の会でお会いできることを楽しみにしています。



副院長
飯田 浩司

手術を受けられた皆様、お変わりなくお元気でお過ごしのことと存じます。

病気が見つかり不安な気持ちで手術を受け、手術直後からのリハビリテーションを乗り越えてお元気になられた皆様に敬意を表します。元気でいたという気持ちを持ち続けて行動することは今後の生活でも大切です。健康の維持には日ごろの生活の注意や運動が大切です。喫煙、肥満、高血圧、糖尿病、高脂血症など心臓病に影響する危険因子といわれる事柄を可能な限り排除して、適度な運動を心掛けて、今後もお元気でお過ごしください。私たちに御用があれば、いつでもご来院ください。



部長
只腰 雅夫

名古屋徳洲会総合病院で主に末梢血管外科を担当させていただいて2年となりました。新しい話題としましては、下肢静脈瘤治療に高周波焼灼術を導入しました。これは、静脈瘤の中にカテーテルを挿入して熱で静脈瘤を変性させるものです。よく似た治療にレーザー焼灼術がありますが、高周波治療は、レーザーと比べて、内出血が少なく、術後疼痛が軽いという特徴があります。当院では1泊2日で高周波治療を行っています。入院のメリットを生かして、手術中には十分な鎮痛剤、鎮静剤を使用することが可能となり、手術の痛みを軽減しています。また、手術翌日に超音波エコー検査を行い、静脈血栓症などの合併症チェックを行っておりますので、安心して退院していただけます。従来から取り組んでいます透析用内シャント治療、閉塞性動脈硬化症治療（バイパス手術、カテーテル治療、ハイブリッド治療、フットケア）も引き続き積極的に行っております。末梢血管に関する全ての治療に取り組んで参りますので、今後もよろしく願い申し上げます。



▲下肢静脈瘤高周波治療の風景



医長
景山 聡一郎

平素より大変お世話になります。

名古屋徳洲会総合病院心臓血管外科の景山と申します。私が名古屋徳洲会総合病院に赴任してもうすぐ十年が経とうとしています。この十年間、医学の進歩も進み、われわれ心臓血管外科の領域でも様々な治療法が生み出されています。内科的治療だけでは病院から出ることの出来なかった重症心不全の患者さんに対する補助人工心臓や、高齢などを理由に手術が出来なかった重症大動脈弁狭窄症の患者さんに対する経カテーテル大動脈弁置換術など、当院は先進的医療も積極的に取り入れています。ますます、地域の皆様のお役に立てるように今後も研鑽を積んでいく所存です。今後とも、よろしく願い申し上げます。



医長
児島 昭徳

2015年の7月から名古屋徳洲会総合病院に赴任いたしました。赴任後あっという間に1年間がすぎ、多くの症例を経験させていただきました。緊急手術を要する患者さんは依然として多く、突然に病気を発症される患者さんに対して、より迅速に対応できるように、日々努めて参りたい所存です。

2016年は当院での経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)がより一段と進歩したことが印象深い出来事です。Corevalveといった最新のデバイスを使用することによって周術期の合併症を減らすことができ、患者さんにとって非常に大きな利益となります。重症な大動脈弁狭窄症の患者さんがTAVIによって次々とお元気になれるのは非常に嬉しい限りです。TAVIのみならず、当院において手術をうけられる患者さん及びそのご家族様に、より満足していただけるよう、ハートチームの一員として励みたいと思います。



小谷 典子

心臓血管外科の小谷典子です。名古屋徳洲会総合病院に研修医の頃より赴任し、今年で5年目になります。現在毎週月曜日の外来を担当させていただいておりますが、大きな手術を乗り越えお元気になった患者さんの顔を拝見するのが毎週楽しみであり、私自身が元気を頂いております。

また、今年6月に1か月間ドイツ・ミュンヘンのハートセンターで研修を受けて参りました。年間3000件の心臓手術を行っている大病院での研修は、大変貴重な体験でした。その経験を活かし、今後も皆様の健康の手助けができるよう日々精進して参ります。今後とも宜しくお願い致します。



▲ドイツでの研修風景(冠動脈バイパス術)



河住 亮

4月より名古屋徳洲会総合病院心臓血管外科に赴任しました河住亮と申します。出身は東京都豊島区で、日本大学卒業後、千葉で二年間初期研修を行い、その後大阪で一年間外科及び心臓血管外科の研修を積んで参りました。名古屋の地に来て新たな環境の中で病院のスタッフの方々や地域の皆様に助けられながら大変充実した日々を過ごしております。心臓の手術は患者さんにとっては人生の一大事です。我々は患者さんが安心して手術に臨めるように手術の前から、手術が終わった後も全力でチームでサポートしていきます。命がけの大変な手術を乗り越えて元気になった姿は我々にとっても大きな励みになります。つらいことや不安なことがあれば何でもおっしゃってください。若輩者ですが名古屋徳洲会心臓血管外科の一員として、地域の皆様に貢献できるよう精一杯努力致します。地域の先生方もこれから大変お世話になることと思いますが、宜しくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。





術後体験記



T.Mさん 男性

平成27年5月4日(月祝)AM6:00前、救急車で貴病院に緊急搬送され、大動脈瘤の手術を受けました。以前より、かかりつけの先生から症状は承知していましたが、連休の真っ只中、病院の受入、先生の当直(待機)、症状の進行、搬送中の腰の痛みなど、総てが不安の中、病院で緊急手術を受けました。その間、どれだけの時間が流れたのか?PM2:00過ぎ、手術が終り、麻酔から目が醒めた時は、「あゝ、生きて戻れたんだな〜」最初に頭に浮かんだ瞬間でした。すべてが順調で、先生方の背水の陣のお蔭だったのです。(後で聞いたのですが、もう少し遅いと危険であったそうです。)その後、昼夜に亘るICUの看護師の皆さん、各スタッフの皆さんのお蔭で、初期を乗り越え、5日目に一般の3階病棟に移る事が出来ました。また、その間には排尿が悪くなり、泌尿器科の部長先生にも大変お世話になり、治癒する事が出来、ありがとうございました。一般病棟でも、看護師さん、スタッフさんの皆さんの愛情豊かな見守りのお蔭で順調に回復し、6月25日に無事退院する事が出来ました。(ICUでは、特に鈴木さんにお世話になりありがとうございました。)

特に心臓血管外科の大橋先生他の諸先生、各部署の看護師の皆さま、色々な職場のスタッフの皆様、清掃担当の皆さん、本当に、本当に有り難うございました。頂いた生命を残された人生と共に大切にに使わせて頂きます。全関係者の皆さま、心より御礼申し上げます。



T.Mさん 男性

高山からドクターヘリで徳洲会へ緊急手術を受ける為に運ばれてきました。病名は、急性大動脈解離でした。手術スタッフの皆様のおかげで6時間半にもおよぶ手術をこなして頂き、命をつないで頂きました。ありがとうございました。感謝の一言につきません。



術後もICU、一般病室と先生をはじめ、看護師さんの献身的な看護に感謝いたします。看護師さんも若い方が多く、明るく元気をたくさんもらいました。本当にありがとうございました。助けていただいた命、大切にしたいと思います。



N.Mさん 女性

突然の徳洲会病院への搬送に救急車の中で、一体、私はどうなってしまうのかと。徳洲会病院に着いてから、看護師さん達がとてもきびきびと行動をとられて患者を不安がらせる事なく事を運んで下さいました。ICUに運ばれ、増々私自身不安になって来ましたが、また、ここの看護師さん達も親切に対応して下さいました。

手術に対するあらゆる検査が行われ、325号室に移りました。検査で一番えらかったのは、胸が苦しいのに息を吸ったり、吐いたり。この検査は心臓のまわりに血栓や動脈硬化があるか、ないかを調べるもので、結局、私にはそれがなく、その手術はまぬがれた様で胸をなでおろしました。

3月2日/2時ジャストに手術を行うという事で、主人、遠い所から長女、次女一家4人、長男と家族が勢揃いして応援してくれます。

手術は麻酔で何もわかりませんが、術後の苦しさは皆さん一同にそう言われました。後から子供に聞けば、私の心臓は破裂寸前で、先生方も想定外で大変だったそうです。でも!私を生き返らせてくれたのです。すごい技術と先生方のチームワークに頭の下がる思いで一杯です。

もし、N市民病院の先生が徳洲会へ送ってくれなかったら、今の私はないし、孫のバレエ発表会も観にいけなかったでしょう。ともすると元気になると体に人工弁の入っていることを忘れてしまいがちな私ですが、甦らせて頂いたこの体をいとおしく、大切にしていきたいです。そして、何事も前向きにとらえ、いろんな事に挑戦して行けたら嬉しいなと思っております。



T. Kさん 男性

私は、平成27年9月9日(水)大動脈弁不全のため人工弁への置換手術をして頂きました。1月初めより体調が悪くなく地元のT病院で診察して頂き、大動脈弁の不全がわかり、名古屋徳洲会総合病院への入院を紹介して頂き、6時間近い手術を受けました。

先生方スタッフの皆様のお蔭で無事に手術が終り、当初は初めての手術でもあり心理的にも弱気になっていましたが、時が経過していくうちに体の方も徐々に回復に向かい、リハビリ、病院内外の散歩などで体力もついて25日間の入院で退院できました。

自分では今まで健康でいたのは当たり前だと思っていましたが、今回の手術で思った事は、生老病死という人間が持って生まれた本来の姿という事を実感しました。術後、左手のしびれの症状がありましたが、半年後には殆どなくなり、有難く思っています。今後は、自分の体と向かい合って、一日、一日を大事に生活していこうと思っています。術後半年に当たって改めて、手術をして頂きました先生方スタッフの皆様、リハビリの先生方、身の回りのお世話をして下さいました皆様、本当に有難うございました。



S. Hさん 女性

私は2月の診察日に通院しているT病院で診察して頂き、「心不全悪化」と診断され、即入院となりました。心不全が落ち着いたところで検査を実施、大動脈弁の手術が必要との説明を受け、手術をするならここだと言われ、不安な気持ちがありましたが決心して、名古屋徳洲会総合病院で診察を受けることにしました。二度目の置換手術です。

今度、手術をする時は、大動脈弁と云われていましたので、それが今、時が来たのだと思った。名古屋徳洲会総合病院で診察をして頂くため、家を早く出て診察を受けました。

その時の先生は、自信のあるはっきりとした説明をして頂き、不安な気持ちを取り除く事が出来ました。手術日が近づいてくると、不安がだんだん募るばかりだったけれど、手術をして頂いた先生、他のスタッフの方や看護師の方々の励ましの言葉を頂き、一日、一日と、徐々に回復して一般病棟へ移り、その日から歩く事(リハビリ)をして体力を付ける事に専念しています。このまま20年以上持たせなければ、せっかく、ここまでにして頂いたので大事に生きようと思います。皆様のおかげで私は、力強く動く弁の音を聞いて生きて帰れました。本当に感謝しています。ありがとうございました。



K.Oさん 男性

4月末から6月初めにかけて、思いがけず人生で初めての入院、そして大きな手術となりました。びっくりするやら緊張するやらの毎日でしたが、始めに入院した4階東病棟、そして3階病棟、手術室やICUのスタッフの皆さんはみな親切で、よく気遣っていただき、それほど不安を感じずに過ごすことができました。

退院して4週間が経ちましたが、徐々に体力も回復してきているように思います。本当にありがとうございました。看護師さんの笑顔や気さくな雰囲気が印象的でした。今でも病室にいて、看護師さんが採血に来られるような夢を見ます。通り過ぎゆく患者の一人ではありますが、つらい時期にお世話になった方々のことは忘れませんので。

途中一時帰宅をはさんで二週間半ほど、とりわけ手術後みなさんには本当にお世話になりました。ありがとうございました。私自身このような大病も入院も手術も生まれて初めての事でしたが、スタッフのみなさんの心ある温かい看護により、なんとか乗り切ることができました。宮前さんを筆頭にある方は女性らしくかつ誠実、また気さくで近づきやすく、あるいは、愛嬌ありと魅力的でありつつ患者の話をよく耳を傾けるモラルの高い看護に心から感謝いたします。本当に激務だと思えます。みなさんもお元気で。

高い倫理観と同じく高度な技術をもって、私の心臓疾患を手術、治療してくださり、ありがとうございます。何より私の生活の根本である信仰心を尊重し、事にあたって下さったことに深く感謝いたします。執刀にあたって下さった大橋壯樹先生、児島昭徳先生、小谷典子先生(担当、説明ありがとうございました)、河住亮先生、また飯田浩司先生、只腰雅夫先生、景山聡一郎先生、まことにありがとうございました。

腎血管性高血圧

今回は、高血圧の中でも腎血管性高血圧についてお話させていただきます。
高血圧はあまり自覚症状がありません。しかし、高血圧を放置しておくと、腎不全
や心不全・脳卒中など死に至る病に進展してしまいます。



検査科
〈副技師長〉
鶴田 隆一

2次性高血圧

高血圧は、原因の明らかでない本態性高血圧(遺伝的要素や生活習慣などが重なり合っている)が90%
を占めています。残りの10%は腎臓・内分泌疾患などの原因疾患があって2次的に高血圧を示す2次性高
血圧です。

この2次性高血圧は原因疾患をきちんと治療すれば高血圧は治まります。しかし、なかには原因不明の
本態性高血圧と間違われて適切な検査や治療が行われていない場合も少なくありません。

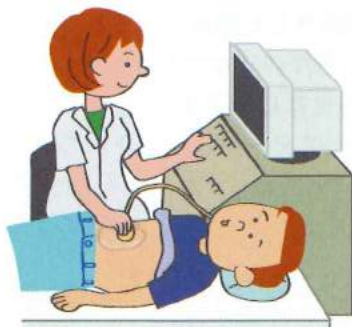
腎血管性高血圧

2次性高血圧の中で、腎疾患による腎性高血圧が最も多く、腎臓そのものの疾患による腎実質性高血圧
と腎動脈の狭窄による腎血管性高血圧に分けられます。

近年、食事の欧米化や糖尿病患者さんの増加にともない動脈硬化(動脈が硬くもろくなる状態)の患者
さんも増加し、腎血管性高血圧も増加してきていると考えられており、全高血圧の3~5%を占めている
と言われています。

腎血管性高血圧は動脈硬化や血管異常により腎動脈が狭窄し、腎臓へ血液が十分供給されなくなりま
す。そのため腎臓は、血流量を保つために血圧を上昇させるタンパク(レニン)を過剰に産生し、その結果
として、血圧が上昇します。

正しい治療を...



当院では超音波による腎血管性高血圧のスクリーニング検査を行っ
ております。検査時間は10~15分程度で、レントゲンの被曝もなく、
造影剤を使用できない腎疾患患者さんにも検査が行えます。また非侵
襲的で繰り返し検査が出来ます。超音波検査で腎動脈の狭窄が疑われ
た場合は、確認検査後、カテーテルによるバルーンやステントを用いた
腎動脈形成を行います。

このように高血圧は、正しい診断と正しい治療が必要です。高血圧で
お困りの方は一度、担当医師にご相談ください。



閉塞性動脈硬化症を ご存知ですか？

動脈硬化は全身の血管に起きますが、閉塞性動脈硬化症は、足の血管によく発症する血行障害です。脚は第2の心臓だからと、術後のリハビリとして1日1万歩を目安に歩きましょうとお薦めしています。

しかし、歩行時には、下肢の筋肉は10~20倍の血液を必要とします。下肢の血行障害があると、その需要に応じた血液が筋肉に供給されず、筋肉の酸素不



足症状が足の痛みとして現れます(間歇性跛行(かんけつせいはこう))。痛みを我慢しての歩行は血行障害を悪化させるので、無理して歩くのはやめましょう。

もしも、間歇性跛行がある場合は、歩行で痛みを感じる距離の約8割の距離を一定のスピードで歩きましょう。良く筋肉を使うと側副血行路の発達が期待できます。



副看護部長
中村 美津

今すぐできる簡単な自己診断

症状として、下肢の温度に左右差がある。間歇性跛行がある。

太ももの付け根(大腿動脈)、足の甲(足背動脈)の脈の拍動を見る。
※触知できれば、ほぼ大丈夫ですが、ご心配の時には外来にお越し下さい。

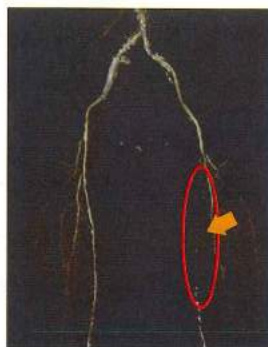


確定診断として超音波検査、血管造影検査を行います。

治療としては、薬物療法、経皮的血管形成術(PTA)、バイパス手術などを行います。



正常な
検査結果



異常が見られる
検査結果



日常生活で疑問や心配事などが、
ありましたらお気軽にご相談下さい

会長挨拶

残暑厳しき折から、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。毎々格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、心臓血管外科術後の会も本年で第17回目を迎えることが出来ました。本年の心臓血管外科術後の会は、候補地3箇所の中より検討し、会員の皆様より近場でゆっくりと過ごしたいとのご要望に応え、愛知県犬山市にある名鉄犬山ホテルにて開催することが決まりました。また、医療相談会についての要望が多くありましたので、皆さんが参加できるように会場広さ、時間の設定をしました。皆さんが術後の生活やリハビリについての要望も多々あり、術後の会の目標に大きく進んでいると思います。この機会に、会員相互に交流を深めて頂くことができればと思います。是非、多数のご参加をお待ちしております。

また、心臓血管外科術後の会の幹事に新しい仲間が加わりましたので、ご本人より自己紹介させていただきます。



術後の会 会長
松原 光男



新幹事挨拶



幹事 宮崎了諦

此の度、術後の会の幹事になりました。その経緯と自己紹介をさせていただきます。

2016年25号ハート通信に術後の会松原会長様より、運営にご協力下さる方へのメッセージが有り、戸惑いを感じつつ、多少のご協力が出来ればと連絡、ご担当者と面接、幹事の方々にご挨拶を申し上げ一員に加えさせていただきました。

氏名は、宮崎了諦(みやざき りょうたい)、1936年4月生まれ、道産子。東京の大学を卒業し、愛知県に就職、日本一と自負する会社を停年、春日井市在住50数年、空手(和道流)3段と体力も有り、ボランティア活動従事。

2011年、健康検査で腹部動脈瘤、冠動脈に悪い所が見つかり、2012年4月他院で全身麻酔、動脈瘤手術後に後遺症で歩行困難、排尿排便不能となり、苦しい生活となった。

2014年1月、徳洲会公開医療講座を拝聴し、総長の大橋先生と奇跡的な出会いで、大変なご尽力をいただき、その後、同年9月に冠動脈バイパス術を受けた。

術前の人生を第一の人生、術後の人生を第二の人生と感謝の日々、自己管理に努力し皆様のご指導ご鞭撻を頂きながらお役に立とうと思っています。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。